

工房信州の家 平屋実例集



みつかる、 自分らしい平屋暮らし

庭とつながり、季節の移ろいを感じながら、信州の暮らしを存分に楽しむ「工房信州の家・平屋スタイル」

長野県産材をふんだんに使い、木のぬくもりに包まれる空間や、ワンフロアの暮らしやすさと広がりを感じるプランニングが、より豊かな平屋暮らしを実現します。

自分らしさが叶う、自由設計だからこそそのデザイン力で、あなただけの平屋スタイルを一緒に作りませんか？

contents

- 01 グレーカラーのバルのような平屋
- 02 Barのある家
- 03 伊那谷の暮らしと景色に調和する家
- 04 余白の家
- 05 キャンプするように人生を遊ぶ
- 06 ハヶ岳の森に暮らす
- 07 田園にひらく家

Home with a Story 01

- 家づくりを物語に -



[千曲市／S 様邸]

グレーカラーの、バルのような平屋

本来の質感を大切に。経年変化も愛おしめるよう、ひとつずつ丁寧に選んだ素材。
こだわり抜いた空間で、お酒を手に仲間と過ごす時間は格別。



天井は唐松の小幅板を全面に。
赤みが増す経年変化も楽しめる。

テーマカラーはグレー。
背面はグレーの板張り。モール
テックスで仕上げたキッチン。

土間とフロアの段差は50mm。
シンプルでクールな印象のコン
クリート仕上げ。



フルオープンサッシを取り入れ、リビング・土間サロン・ウッドデッキがほぼフラットに連なる。サッシは戸袋にしまえるのでスッキリした印象に。(上)
土間サロンの一角は、趣味の洋盆栽のための空間。窓を大きく光を取込みつつ、壁もしっかり計画。(下)

シンプルな平屋の外観。グレーの塗り壁に、ブラックの窓枠がアクセントに。窓サイズや位置にもこだわりスタイリッシュな印象。(上)
土間サロンに置いた薪ストーブは、アイアンドッグ No.7。開口部に近く薪動線も抜群。(中)
玄関で家族を出迎えるペンダントライトは真鍮製。鎌倉の作家作品で、工房を訪ねオーダーしたこだわりのもの。キッチン、トイレにも同作家の照明を選んだ。(下)



owner's voice

結婚を機に、まず住宅展示場を見てみようかと一軒目に入ったのが工房信州の長野古牧展示場。初めての見学なのに、この時点で心が決まりました。ホンモノ感があり、美しい素材の組み合わせで成り立つ空間に一目ぼれでした。

土地探しからの家づくりでしたが、今のゆとりある土地に出会い、2階建ての必要性がなくなったのが平屋にした一番の理由です。ワンフロアで動線に無駄が無く、ロボット掃除機がいらなくらいに掃除が楽なのも嬉しいですね。

その分土間サロンを広めに取り、一角を洋盆栽コーナーにしました。ベストな採光のために窓のサイズや軒の長さを計算したり、照明機材を隠しつつ空間に一体感が出るよう、キッチンの間に仕切り壁を設けたりしました。とことんこだわった土間サロンです。

二人とも料理とお酒が好きなので、キッチンに立ちながらお酒を楽しめるよう計画しました。ワイングラスやボトルのディスプレイも楽しんでいます。

素材本来の質感を大切に。工房信州の家が使う自然素材と私たちが目指す家づくりがマッチしてできた空間に、満足しています。





初めて展示場を見た時から、土間サロンに洋盆栽を置くイメージが持てたという。今では同じ趣味の仲間を招いて、手をかけた洋盆栽を眺めながらお酒を飲むのが至福の時間、と話してくれた。

竣工 2023年3月
敷地面積 493㎡（148坪）
延床面積 102㎡（31坪）
家族構成 夫婦・息子さん

Home with a Story 02

- 家づくりを物語に -



[上田市／M様邸]

Barのある家

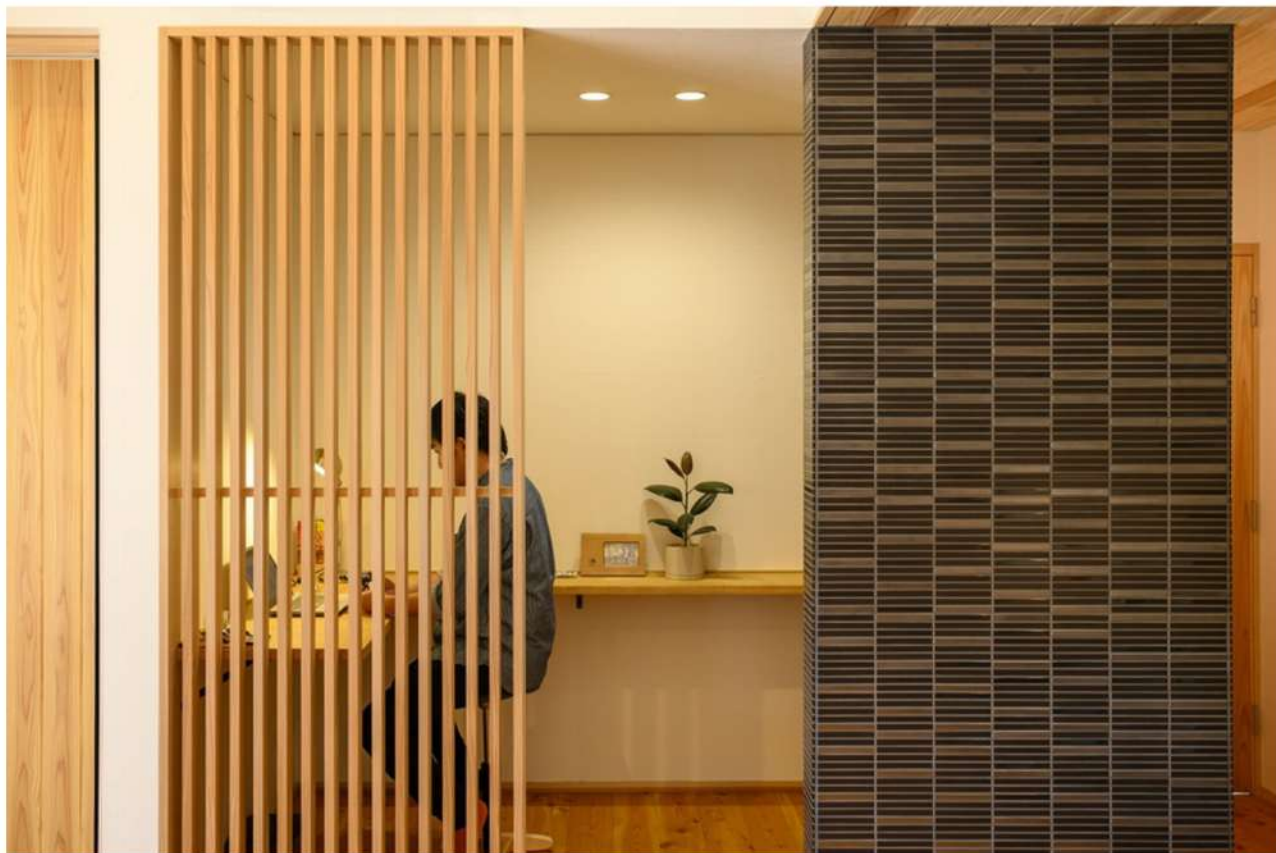
お気に入りのクラフトジンが並ぶBarのような住まい。
こだわりの空間を眺めながら飲む至福の時間。
夫婦だけの楽しみは、気付くと仲間を招く楽しみに。

ダイニングキッチン天井は
無節のスギ板張り

「けいそうモダンコート」のヒキ
ズリ仕上げ。間接照明により陰影
が浮かびだす

カウンターは奥行を広めに
とり食事作業もしやすい





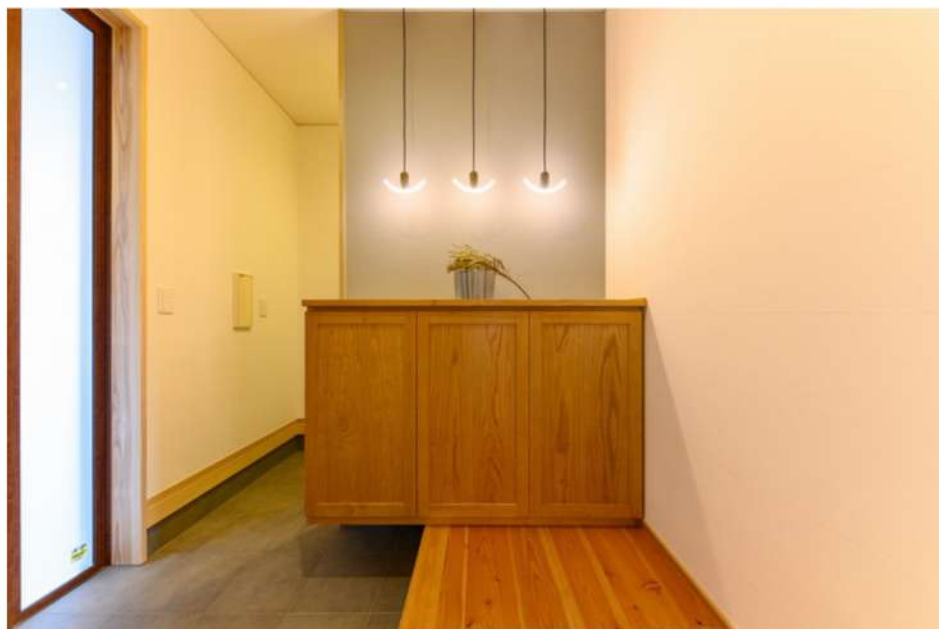
ご主人の書斎は縦格子でリビングとほどよく区切った。一部タイル貼りの壁が空間のアクセントに。壁の裏側は可動式の本棚を計画。(上)
 キッチンの落ち着いた空間と対照的に、リビングは珪藻土の白を基調に、光もたっぷり入る明るい空間。ロフトをつくり天井高を高めにする事で、平屋でも吹き抜けのような開放感がある。(下)



軒天は、ケイカル版のダークグレー仕上げ。外壁とポーチタイルも色を統一したことで、玄関周りの板張りがアクセントとなっている。(左上)

リビングと繋がるウッドデッキで過ごすことも多い。3時間かけて燻製したり、BBQも楽しむ。朝起きて一番にウッドデッキに出て庭を眺めるのが日課。平屋はより庭に近い暮らしができる。(右上)

シンプルなデザインの玄関も、ペンダントライトで個性的な印象に。(下)





奥様の書斎は個室に。好きなものに囲まれる自分だけの空間。北西の位置だが、窓を大きく取り自然光で明るい。(上)

平屋でも落ち着けるよう、寝室は道路から一番遠いところに配置した。ウッドデッキにもつながるので、毎朝起床後はデッキに出て外の空気を吸い込むのが日課。(中)

造作の洗面コーナー。水はねが気になる部分はタイル貼りとした。上部の窓サッシから光が入り、明るく清潔感のある空間に。(下)



owner's voice

一生に一度の家づくりは、自分たちが満足いくデザインの家にした、と思っていました。

夫婦2人なので、コンパクトで将来的にも快適に暮らせるように平屋を考えていました。



私たちはジンやウイスキーなどおいしいお酒をじっくり味わうのが好きで、Barのような雰囲気のキッチンを目指し、ひきずり仕上げの塗壁に、お気に入りのボトルを並べる棚、そこに間接照明を計画しました。

2人で料理をしたり、お酒を飲む時間を大切にするのと同じくらい、1人の時間に没頭できる空間づくりも重視しました。夫は縦格子でリビングとゆるくつながる書斎に。私は好きなものに囲まれる自分だけの個室書斎に。夫婦それぞれの個性ある空間ができたと思います。

我が家の象徴のようなキッチン空間は、その眺めをつまみに飲めるほど気に入っています。

ただ、自分たちで楽しむ以上に家に来てくれた人にもこの時間を味わってもらいたい、最近そんな気持ちが湧いてきてるのは大きな変化かな、と思います。



造作のキッチン収納の天板にもお気に入りのツールが並び、作業スペースとしても活用。
家を建てたことで、夫婦だけでお酒を愉しむ以上に、来客にこの空間でくつろいで欲しいと
思うようになった、と話してくれた。

竣工 2022年12月
敷地面積 317㎡（96坪）
延床面積 81㎡（24坪）
家族構成 夫婦

Home with a Story 03

- 家づくりを物語に -



[高森町／F 様邸]

伊那谷の暮らしと景色に調和する家

田舎暮らしをするなら、その土地に馴染む家にしたいと思う。

家を外に向かって開き、故郷の人と風土とつながる工夫を。

その佇みは、今もいいし、半世紀先もきっとここに馴染んでいそう。

天井はスギ板張り。ダイナミックに梁を現したウッディデザイン。

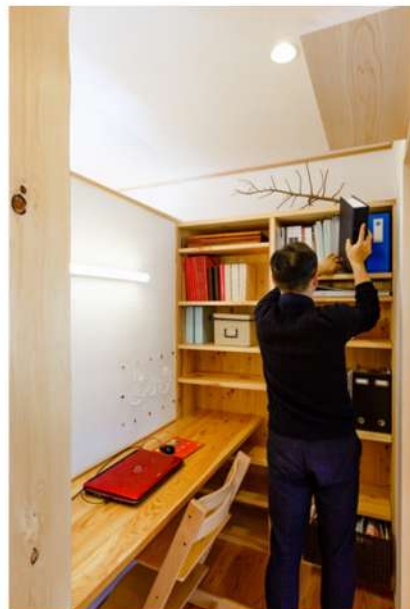
カウンター収納は大工による手作り。大切なお酒や食器を見せる収納。

床は長野県産のカラマツ。節が少ないものを選んだ。



マストだった薪ストーブの赤がアクセントに。これに合わせて炉台のレンガを調達し、ギャップもあつらえた。「階段がなく、まっすぐでシンプルな動線が使いやすい」と奥様が話す。(上)
 ダイニング横の和室はゲストルームとしても使う。モダンであり和の折り目正しさもある。つり棚の下の窓からは良く風が入り、夏心地よい。(下)

リビングの一角を書斎に。こもる感覚で、仕事や読書に集中できる。壁には「ひとてま工房」で珪藻土塗りに挑戦した記念の、家族の手形。(上)
 子ども部屋には、引き戸収納の他にロフト収納を設け、平屋の小屋空間を有効活用。子どもには秘密基地みたいで楽しい。(中)
 柱の一つに、以前アパートで使っていた身長計を取り付けてもらった。娘さんの成長記録がこの家でも引き継がれた。(下)



owner's voice

この土地は元々、祖父の家や蔵があった場所でした。せっかく田舎に住むのだから、伊那谷の暮らしや景色と調和する家にしたい。私たちが家づくりで一番大切にしたことでした。山里の風景に馴染むよう平屋建てで、切妻屋根の傾斜や厚み、軒の出方までこだわりました。平屋だからこそ実現した、階段がないまっすぐでシンプルな動線も使いやすく、家事や子育てもラクにしてくれています。

LDKから子ども部屋、寝室までつなげた長いウッドデッキは、各部屋をつなぐ外廊下のようにあり、軒つきの縁側のようにもあります。農業が忙しい時期には、両親が田仕事の合間に休憩しに来ますし、実家の猫も散歩していく、オープンなスペースになりました。ご近所さんとちょっと話すのには、玄関脇の土間サロンが使い勝手が良い。故郷の人とつながる暮らしが出来ているのも、家を外に開く工夫をしたからだと思います。



切妻屋根の平屋が、南信州の山里の景色によく似合う。傾斜、材の厚み、軒の出方など、屋根にはご主人が細部までこだわった。(上)
 陽だまりが心地よいリビングは、フルオープンサッシを介し、ウッドデッキや屋外へと緩やかにつながる。(中)
 リビング入口には家族用の本棚を設けた。お子様の絵本や、仕事関係の本などたっぷり収める大容量。(下)





日当たり良くコンパクトにまとまった土間サロンは、新聞や本を片手に、ひとり時間を過ごすのにもピッタリ。玄関脇の配置は、回覧板をもってきたご近所さんと、ちょっと話すのにもちょうどいい。

竣工 2018年7月
敷地面積 679㎡（205坪）
延床面積 114㎡（34坪）
家族構成 夫婦・娘さん